

◆最優秀賞◆

メンバー ※敬称略、先頭がリーダー	所属ゼミ	テーマ・企業
藤田 千聖 山本 匠真	経営学部・ 福原康司ゼミ	当社への採用応募人数の増加策について(京急建設株式会社)
菊田 海星 宮川 璃子	経営学部・ 間嶋崇ゼミ	次世代の新たなファン獲得につながる催事場企画の提案(株式会社京急百貨店)
本田 凛花 阿部 霞乃音	経営学部・ 福原康司ゼミ	働き甲斐のある職場づくりに繋がる新たな施策についての提案(丸全昭和運輸株式会社)
木村 琴梨 瀨口 純太郎 二宮 輝	商学部・ 池部亮ゼミ	100周年を迎える川崎信用金庫の新たな事業戦略について(川崎信用金庫)
岩澤 夏南 森谷 友星	商学部・ 石川和男ゼミ	かながわ信用金庫の店舗を活用した地域活性化施策について(かながわ信用金庫)

◆優秀賞◆

安田 幸太郎 山田 修造	経営学部・ 日黒良門ゼミ	井上 優花 小林 祐貴 新井 ひとみ	商学部・ 成岡浩一ゼミ
石井 恭平 八島 康平	経営学部・ 関根純ゼミ	林 陸斗 寺本 大輝	商学部・ 石川和男ゼミ
菊谷 涉 西沢 歩華	経営学部・ 関根純ゼミ	小見 啓介 池田 治里 若森 威吹	商学部・ 国田清志ゼミ
尾首 達哉 佐野 遥香	経営学部・ 今井雅和ゼミ	日吉 小川 小川 島	商学部・ 増田明子ゼミ
坂本 晴那 黒川 美那	商学部・ 櫻井康弘ゼミ	山内 健太 宮内 春菜	商学部・ 成岡浩一ゼミ
須貝 郁海 池田 美夢	商学部・ 石川和男ゼミ	小路 陽光 山崎 宗	商学部・ 石川和男ゼミ
		吉川 響士郎 高橋 明里	商学部・ 高橋義仁ゼミ
		佐藤 大悟 神山 果穂 神田 ひとみ	
		坂本 親菜 上田 花純	
		森田 悟 須藤 謙 寺崎 遙名 千葉 あい	
		石山 琴音 野村 蓮 松下 蒼 元智 黎	
		瀧 愛美 五十嵐 光雲	

最優秀賞・優秀賞を受賞した皆さんと佐々木学長(右端)



第18回神奈川産学チャレンジプログラム 5チームが最優秀賞

神奈川県内にある企業や団体、大学による産学連携の課題解決型コンペ「第18回神奈川産学チャレンジプログラム」(一般社団法人神奈川経済同友会主催)の表彰式が12月12日、横浜市のパシフィコ横浜で行われた。専大からは5チームが最優秀賞、13チームが優秀賞に選ばれた(別表参照)。今回はアフターコロナを見据えた経営戦略、SDGsに対応した取り組みなど、32社がテーマを提示。19大学の182チームが応募し、専大からは48チームが参加した。

最優秀賞チーム リーダーの声

◆藤田千聖さん(経営3) 学生自線のインターネットとSNSによる情報発信を提案した。自分だったらどう思うか?と問うことがアイデアにつながった。ゼミで常に言われている「問題を自分事化して捉える」ことの大切さを実感した。

◆菊田海星さん(経営3) 店舗と最寄りの高校がコラボする「京急高校文化祭」、次世代の顧客獲得を目指す。

◆木村琴梨さん(商3) 川崎市の社会問題解決に取組む新事業を考案した。綿密な分析と具体的なターゲット設定を行ったうえで、アイデアだけでなく実現性を追求。また、ゼミでのプレゼン練習が賞につながった。

◆岩澤夏南さん(商3) 良いアイデアを引き出すために会議の進め方に配慮した。意見の対立から斬新で面白い提案が生まれた時は楽しさを感じた。活動を通して、一かたビジネスプランを組み立て、知識をアウトプットする経験ができた。

ビジネスデザイン学科 ミストミラージュプロジェクト 4人が企画・運営 学生・教職員がアイデア出し合う



学生と教職員が交流しながら、社会課題の解決策を考える「ミストミラージュプロジェクト」の第3回ワークショップが1月17日、生田キャンパスで開かれた。プロジェクトを立ち上げたのは、経営学部ビジネスデザイン学科3年次の井関菜那さん、山本美也さん、島田舞さん、石井寧さんの4人。3回のワークショップには、延べ70人以上の学生や教職員が参加した。

混合の4グループに分かれ、和気あいあいとした雰囲気の中、アイデアを出し合った。グループごとに、教育の質向上や教員の職場環境改善につながるアイデアなどを発表し、全員でワークショップの成果を共有した。このプロジェクトは昨年度、見山謙一郎特任教授の授業で「コロナ世代からの専修大学へのSDGs提案」というグループワークに取り組んだ4人が、「提案で終わらせず、アイデアを実現できる場をつくりたい」と考え、立ち上げた。ミストミラージュは「Catch the mist(霧を掴む)」と「Find a niche(罅気楼を見つめる)」を組み合わせた造語で、島田さんは「対話によって自分の中の『もやもや』に気づき、新たなアイデアを見つけようという思いを込めた」と話す。

自分たちの手でワークショップを企画・開催するという経験を通じて、一失敗しても、改善して成長につながれば良いというマイニングが身についた。私たちの活動に共感し、運営を手伝ってくれる仲間が増えたのもうれしいと井関さん。石井さんは「来年度に向けてブラッシュアップし、自分自身も成長していきたい」と目標を語った。



プロジェクトを立ち上げた4人

年齢や立場を超えてアイデアを出し合う参加者たち

解決策を探った。プロジェクトでは「参加者同士が年齢や立場の違いを超え、互いの得意を生かしてフラットな関係で対話することを大切にしている(山本さん)。この日も、学生と教職員

Campus snap #センダイセイ

個性豊かにキャンパスライフを送る
「イマドキ専大生」を紹介!

人間科学部
社会学科

→

趣味は写真を撮ることと旅行に行くこと。K-popも好きで、韓国語を勉強中です

法学部
法律学科

→

教員を目指し教職課程を履修しています。最近ではボルダリングにはまっています!!

ネット情報プロジェクト最終発表会 3年ぶりに対面で開催

ネット情報プロジェクトで、多くの来場者が会場3年次生の必修科目「プロ」で学生の活動の成果を体感した。このプロジェクトは、対面形式での開催は3年ぶり。研究や開発を行うグループワーク型の演習科目。今年度は27チームが活動した。

小田切健太プロジェクトは「新たなコミュニケーションの形をデザインする」をテーマに、プロジェクトのマップングの技術を活用して会議を見える化し、話し合いを活性化させるプロジェクトを開発した。

AIとの共存の可能性も見られた。

6作品を表彰

川崎市多摩区や専修大学の魅力を伝えるCM映像を制作するネットワーク情報学部2年次専門科目「映像演習基礎」(担当=藤原正仁准教授、杉田このみ講師)の優秀作品表彰式が1月19日、生田キャンパスで開かれた。多摩区部門16、専修大学部門25の計41作品の中から優秀作品6点選ばれ、賞状が贈られた=写真。

を採った尾形幹人プロジェクト、SDGsとゲームを組み合わせた飯塚佳代プロジェクトや佐竹弘靖プロジェクトなど、社会課題や教育的テーマを取り入れた研究